

「日本の樹を生かして日本の風土に合った日本の家を建てよう。」というヤマトタテルには、その土地ならではの良材を届けたいと願う製材業者が参加しているが、日本の山を元気にしてくれそうな、元気な2代目3代目を紹介する。



パワフルで熱い語り口の村本会長を囲んで

## 製材業の若手後継ぎが熱い 日本の木ってやっぱりいいよ!

総勢37名で2日間にわたって行われた研修・見学会

いい家を造りたいと願う共通の思いを持った人々、この大きなエネルギーの塊はどこへ行っても興味津々、語る方も聞く方もやっぱり熱い人間の集団である。



**株鈴鹿製材所**  
3代目 鈴鹿雄平

岡山県津山市では地松を利用する文化が根ざしているという。1200〜1300年の家を解体すると、縦は栗、横は土台に至るまで全て松が使われているという。赤松は全て天然木である。近年はマツクイの被害にあり、あつという間に全国から松が消えてしまつた。そんな貴重な天然の松を切つてしまつてもいいのかという声が出る。しかし、マツクイの被害を止めることができない中、赤松は、いずれそのほとんどが枯れてしまつて運命にあるという。それならば、命あるうちに、自分たちの手で製材し、建築材として更に長い年月を生きてもらいたいと語るのは鈴鹿製材所の鈴鹿雄平さん。美しい地松を愛してやまない製材所の3代目である。地松は、そのねじれるという特性のため、扱う大工さんの技術が必要になる。また現在では屋根の重い家が少なくなつてきたため、以前ほど地松の強度を必要とされなくなつてきているという。しかし、木目、色目の美しさに誰もが感嘆の声をあげる。説明を聞くうちに、強くて美しい地松に惹かれながらもなかなか手が届かないと思つていた人達にとつて、かなり身近な存在になつたようである。天然の木は、生きていくからこそ、反りも割れもある。そこを充分に理解した上で使つていきたい良さがある。



これだけ大量の地松を見る機会には他にはないため誰もが興味津々。硬くてツヤのある地松に魅了された。



**株サカモト**  
3代目 坂本和信

智頭杉を扱う(株)サカモトの若い3代目は坂本和信さん。おすすめるからには自分の家を杉で建てなくては！自宅を新築して間もない。家に帰るといつも玄関ドアがきれいでつい見とれてしまつと語る。光が差し込んだ壁、うつくりの階段、どれもこれもきれいでと嬉しそうに語る。こちらには一般の人にも訪れることができ、空間に足を踏み入れるだけでもあまり見る機会がない木の良さを生かした家。木がいいというイメージはみんな持つていると思うので、それを素直に信じてほしい。木は傷がつきやすいとか、高いとか、割れるというけれど、その空間を気に入れば、それらのことは許せてしまつては、身近なところでも木を使つてもらつて、良さを少しずつでも分かつてもらいたいですねと坂本さんは言う。サカモトでは樹齢80年以上の良質の杉材を扱っている。色にこだわつて買入れているというだけあつて赤味の美しい杉が揃つていることが特徴だ。柱目の杉で造つたブラインドは断熱効果もあると好評で、家具作家とのコラボレーションで家具の製作にも力を入れている。まずは、そのあたりから本物のぬくもりに触れてみるのも悪くない。



先人達が100年間手入れし続け、杉自身が風害や雪害に耐え続けたからこそ良い商品をつくり出せる。大切に使わなくては。



**株鳳至木材**  
四住一也

そして、その坂本さんの説明を三三三聞いてるのが、能登ヒバを扱う鳳至木材の四住一也さん。ヒバというのは、石川県の県木で、地元ではアテと呼ばれているという。緻密で粘り強く、水にも、シロアリにも強い木だという。以前、多量の風倒木が価格下落のため山に捨てられていたものを、価格が戻つたときに搬出したことがあるという。十数年経つていたので他の木は朽ち果てて土に戻つていたのにヒバは美しい木肌のままだつたというくらいに強いことを証明している。そんな特性を生かして、外壁材に使用されることも多い。しかし強いだけではなく、優美な淡黄色に魅せられ、遠くから仕入れにくる工務店も多いという。輪島では能登ヒバに漆を塗つて仕上げるといふ手法がまだ一般的に行われているそう。吹き漆の艶をもつた床材とはなんとも贅沢な町である。



**阪口製材所**  
3代目 阪口勝行

そしてもう一人、木のことを話し出したら止まらない人物が奈良吉野の阪口製材所2代目の阪口勝行さんである。「木を一本丸ごと使い切ります」「家棟分の木材を全て用意します」と熱く語る。広大な製材所に常時約100棟分以上の木材が保管されている。自然乾燥にこだわるので、じっくりねかせておくためだ。長い年月かけて育つてきた木は、加工して初めて木材となる。山に何十年も生えてきた木を、わずか2〜3日の高温乾燥して、たった2〜30年しか使わないようなことではないのか。せめて山で生きてきた年数は使わなければならないという思いがある。乾燥に1年も1年半もかけるなんてといわれるが、木から見ればわずかな時間。その期間を費やすことで、艶もあり美しい丈夫な木材となる。建築家がお施主さんを連れて製材所を訪れることも多く、完成後のホームパーティーに招かれることもあるという。一生懸命が認められた嬉しい時間である。

新建材で建てた家は竣工した時が一番美しく、時間の経過と共に、みずばらしくなつていく。しかし、本物の木で建てた家は、時間と共に美しく変化していく。傷がついてもそれが味わいや懐かしさに変わっていくことを一人でも多くの人に伝えたい。

能登ヒバの家

ヤマトタテル

- 国産材木グループ  
 協同組合 レングス ▶P344  
 阪口製材所 ▶P340  
 鳳至木材(株)  
 (株)山儀製材所  
 (株)サカモト  
 山下木材(株)  
 (株)鈴鹿製材所  
 丸紅ランバー(株) ▶P345

- 設計施工グループ  
 Ms建築設計事務所 ▶P22, P58  
 協同組合もくよう連 ▶P260

- 優良建材グループ  
 (株)ムラモト ▶P352  
 コボット(株)  
 (有)空間工房 ▶P350  
 (株)タフ ▶P366  
 新日本石油(株) ▶P364  
 (有)インターテック ▶P328  
 日本オスモ(株) ▶P326

もくよう連

- ばんだい東洋建設(株)  
 福島県会津若松市  
 岡庭建設(株)  
 東京都西東京市  
 (株)小澤建築工房  
 山梨県甲府市  
 (有)入政建築  
 静岡県浜松市  
 コスモホーム(株)  
 愛知県名古屋市  
 (株)ツキデ工務店 ▶P288  
 京都府宇治市  
 (有)羽根建築工房  
 大阪府大阪市  
 (株)エヌテック  
 広島県広島市  
 徳矢住建(株)  
 奈良県奈良市  
 (順不同)



もくよう連の「もく」は木、「よう」は太陽の陽。  
 木と太陽の光を生かした家を造ろうと、  
 京都を中心とした8社の工務店が手をつないで立ち上げた「連」です。  
 小さな力も集めると大きな力を発揮できるという確信のもと  
 情報や技術の交流を深めています。

# もくよう連 京都発!

## よみがえれ日本のDNA

—文化の継承と新しい技術の融合—

元々別の団体に所属していた人たちが、その会を通して建築というものをいろいろと勉強することが楽しく、建築家や同業社、様々な人との交流もすばらしかったので、これを自分たちでやってみようとなり、新しく会を立ち上げたということらしい。

建築家の設計のいいところを見て盗み学び、自分たちのものに工夫して取り入れていく。こうした努力を積み重ね、それぞれが、その地域にあったオリジナルの家づくりを実践しているそうである。だから、設計力もあり、そして当然のことながら施工もしっかりしている。

夜の懇親会では空気集熱式ソーラーシステムの創始者である奥村昭雄先生、その機械を作り上げた友伸平氏、そして「大きな暮らしができる小さな家」で有名な永田昌民先生も同席され、日中は仕事で参加できなかったメンバーやスタッフも加わっての大懇親会となった。

あちこちで話される話題は、やっぱり建築の話が中心!家づくりが根付から好きな人たちの集まりのようである。

東京は東伏見駅に集合し、挨拶もそこそこワゴン車2台に分乗して出かけた先は、住宅密集地。狭い道路をくるくる廻るように走り抜け、岡庭建設さんが手がけた住宅を次々に車窓から、あるいは車を降りて外観を拝見した。

車中では、「この辺りの坪単価は」の問いに、「100〜150万円くらいですね」の答えがかえり驚嘆の声が上がる。「土地買ったら家を建てるお金がなくなっちゃうなあ。」「だから安い建売が多いのかあ。」などなど。そうこうして数件見た後に、7月に竣工したばかりというお宅に着いた。まだ幼いながらも木々に囲まれ、屋根の上には展望台らしきものがある。外部に開かれたウッドデッキも印象的だ。こちらが「物見台のある家」今日の案内人である岡庭建設さんが設計施工されたお宅である。

ステキ!これが工務店さんの建てた家?というのが、失礼ながらの第一印象。町の景色になる家を建てたいというお施主さんからのご要望と岡庭建設さんの設計コンセプトとが見事にマッチしたようだ。

どうぞどうぞとお施主さんから暖かく迎えられる、十数人がぞろぞろと上がらせていただく。コンパクトながらもそこそこ工夫が見られる家の様子に、皆からの質問が飛ぶ。この材質は?この納めは?この高さは?これはどうして?あそこは?どうなってるの等々。これこそが、まさに今日の主役「もくよう連」さん達の目的である。

もくよう連というのは、木と太陽の家づくりをしている福島から広島まで各地に点在する小さな工務店が集まった協同組合。それぞれがお客さまの声、顔が見える規模である。

この日は、全国から8社が集まり、組合員の施工物件を見学し、定例会議を行い、夜は建築家との交流会、翌日は建築家自邸を2軒見学するという充実した内容。定例会は毎月あり、それぞれの完成見学会や構造見学会は随時情報交換を行っているそうである。

見学のあとの定例会は岡庭建設さんの事務所で行われた。今日の議題はパネルの収まりについてで、意見が飛び交う熱心な雰囲気。圧倒された。社長だけでなく、着いてきたスタッフたちも真剣だ。

その後、皆さんにお時間をいただき、もくよう連に参加したいきざみや思いを伺った。

他社の仕事を見ると自分たちのいい所も悪い所も見えるからと勉強会、見学会を通じて切磋琢磨し、品質の高い住宅を提供し続けている集団なのだ。

この日は、全国から8社が集まり、組合員の施工物件を見学し、定例会議を行い、夜は建築家との交流会、翌日は建築家自邸を2軒見学するという充実した内容。定例会は毎月あり、それぞれの完成見学会や構造見学会は随時情報交換を行っているそうである。



互いの施工例を見学しあっては切磋琢磨し、腕をあげていくもくよう連のメンバー達。

